

4

若手農業者意見交換会の開催

- 実施主体 公益財団法人阿蘇グリーンストック
- 実施場所 阿蘇草原保全活動センター草原学習館
- 実施期間 令和元年12月9日



<背景・ねらい>

現在、主に原野を利用しているのは、牧野組合の有畜農家である。後継者の不足により有畜農家及び放牧、飼育頭数も減少している。それに伴い、原野や草の利活用も減り、放棄地も増えてきている。

そのような状況で、稲作、畑作、施設園芸、畜産農家が連携、協力して草の利活用を進めていくことを検討する。また、原野維持についての課題を抽出し、対策を検討する。そして具体的な改善策を考える。

■実施概要

- ・阿蘇郡市内の若手農業者による意見交換会を実施した。
 - ①草原再生協議会の方向性について
 - ②あか牛の振興支援策について
- 以上2つのテーマにて意見交換を行った。

■実施体制

- ・阿蘇草原再生協議会 牧野管理小委員会委員長
- ・若手農業者：3名
- ・学識経験者：1名
- ・公益財団法人阿蘇グリーンストック：2名



若手農業者意見交換会

■成 果

- ・草原保全に欠かせないあか牛の振興支援策について具体的な取り組み案が多く出された。あか牛の現在の立ち位置を再確認し、効果的な畜産支援について意見交換と情報共有を行った。
- ・今後の畜産振興における課題として新規農業者とのコミュニケーションや、行政、畜産協会との関係強化が挙げられた。新規農業者については実態の把握が十分できておらず、支援が不足している現状がある。地域的なつながりを強化し、新規農業者の増加や営農規模拡大が実現できれば将来的な草原利用の幅が広がることが期待される。
- ・過去3回開催した同意見交換会を合わせて、これまでの総括としての実施報告書を作成した。

■実施者の感想

- ・阿蘇地域の農畜産業に対して、若手農業者は高い意識を持っており、振興策を常に模索している。しかし、古い慣習や入会権など「昔からの決まり事」によって身動きが取れないことが多いようである。また、保安林の解除や火入れ責任など行政のさらなる協力が必要な問題も多く残っている。若手農業者をとりまく環境改善の必要性を感じた。